

平成25年度公益財団法人滋賀県陶芸の森事業報告

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中での創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、またこれまで蓄積してきた情報収集力、技術力や国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にしなが、陶芸館・信楽産業展示館・創作研修館の三つの施設の運営を通じて、県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として、地域性と国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与してきた。

また、平成25年10月に開催された「第2回信楽まちなか芸術祭」では陶芸の森が主会場のひとつとして位置づけられ、信楽の町中の人たちと共に芸術祭に取り組んだ。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理に努め、入園者に快適な空間とサービスの向上に努めた。

1. 公園機能の充実

(1) 陶芸作品の野外設置

陶芸の森の名にふさわしく、創作研修館に滞在した陶芸家の作品4点を園内各所に設置し、陶芸の森を訪れる県民へ陶芸の普及に努めた。

・設置作品

「天地のこぼれ」	吉村敏治（日本）
「ゆびさきにかかることがら」	吉村敏治（日本）
「未練」	李 岱容（台湾）
「MAKER」	ギャレット・マスターソン（アメリカ）

(2) ボランティア活動の推進

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、展覧会展示解説、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、陶芸館展示監視補助、園内園芸作業などボランティアによる活動支援を受け、利用者へのきめ細かなサービスを提供した。また平成25年度はボランティアを積極的に活用している県外美術館への見学会を実施し、今後の活動の参考とした。

ボランティア活動状況（平成25年度登録ボランティア数 51人）

①展覧会解説	25人	④講演会参加	11人
②子どもやきもの補助	10人	⑤園内案内	1人
③園芸活動	17人	⑥見学会参加	14人（愛知県瀬戸市）

(3) 窯の広場の充実のためのスイッチバックキルン築窯

平成23年度から25年度にかけて、当初、6基の薪窯が点在していた泉の広場の南側に「窯の広場」という名称をつけ、新たに「スイッチバックキルン」を築窯した。また、窯のおもしろさが一般の人にも伝わるように解説看板等の更新、新規設置を行った。

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森は滋賀県南部地域の観光拠点として、地域資源を活かしなが、新規来園者やリピーターをつくる

ことを目的とし、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、各種体験講座や陶器市、様々なレクリエーションイベントを開催した。また、甲賀市やびわこビジターズビューロー、観光協会等と連携し、陶芸の森の魅力発信を行い、誘客促進に努めた。

(1) しがらき体験・しがらき学ノススメ

ア. 実技講座

やきものについて広く学ぶことができるよう陶芸家の指導による、初心者向けの講座から、一步踏み込んだ高度な技術を伴う講座まで開催した。

(ア) 「手びねりでうつわをつくろう！食のうつわをつくる」

講師の指導のもと、普段づかいのできる食器、片口、小鉢、茶碗などを自由に作陶した。作品は、後日希望する釉薬をかけ焼成した。

<開催日>6月23日(日) 講師：細川政己 (参加者23人)

(イ) 「技法別講座 ミニ窯をつくろう！」

手びねりでぐい呑み数個が焼成できる窯をつくり後日、炭を燃料に焼成した。

<開催日>3月9日(日) 講師：越沼信介 (参加者8人)

(ウ) 「技法別講座 イッテコイ窯で作品を焼成しよう！」

3kgの粘土を使用し、手びねりで食器、茶碗、花器などを自由に作陶し、後日、イッテコイ窯(灯油薪併用窯)で、焼き締めや釉薬ものを焼成した。

<開催日>12月1日(日) 講師：石山哲也 (参加者13人)

(エ) 「技法別講座 “上絵付け” に挑戦しよう！」 特別企画展「あれもやきものこれもやきもの」 関連事業

磁器のお皿に上絵付けをし、運筆などの絵付け技術の習得も同時に目指した。

<開催日>6月30日(日) 講師：渡部味和子 (参加者19人)

(オ) 「技法別講座 “練りこみ技法” でうつわをつくろう！」 特別企画展「あれもやきものこれもやきもの」 関連事業

練り込みの技法を基本から学び皿、鉢などのうつわを制作した。

<開催日>7月14日(日) 講師：村田 彩 (参加者31人)

(カ) 「技法別講座 “ラク焼” の茶碗をつくろう！」

ラク焼の茶碗を制作した。後日、ラク焼の焼成をおこない赤ラク、黒ラクなどの茶碗を制作した。

<開催日>5月19日(日) 講師：奥田英山 (参加者27人)

<開催日>9月21日(土) 講師：奥田英山 (参加者21人)

(キ) スイッチバックキルン築窯、焼成講座

スイッチバックキルンという従来の薪窯とは違った構造の火前、後ろの差ができていく特色ある窯を築いた。また、20kgの粘土を使い自由に作陶してもらい、自らがつくった窯で実際に作品を焼成した。築窯の方法を学びつつ、同時に作品制作技術の向上を目指した。

<開催日>説明会：7月20日(土) 講師：野口悦士 (参加者20人)

築 窯：9月19日(木)～10月6日(日)

焼 成：10月6日(日)～9日(水)

イ. 穴窯体験講座

信楽焼の伝統技術と歴史を広く一般の方に知ってもらうため、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくった。

(ア) 「穴窯講座(初級向け)ー信楽焼で酒と肴を楽しむ器をつくる」特別展「酒器の玉手箱」関連事業

3kgの粘土を使用し、グイ呑、片口、徳利などの酒器を制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

<開催日>10月19日(土) 講師:高橋楽斎 (参加者8人)

(イ)「穴窯講座(上級向け)ー大壺をつくる」

10kgの粘土を使用し大壺を2日間にわたって制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

<開催日>10月26日(土)・27日(日) 講師:神崎継春 (参加者15人)

(ウ)「穴窯講座(初級向け)ー茶碗をつくる」

3kgの粘土を使用し、茶碗を制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

<開催日>11月3日(日) 講師:奥田英山 (参加者5人)

(エ)「穴窯講座(中級向け)ー花入をつくる」

5kgの粘土を使用し花入れを制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

<開催日>11月17日(日) 講師:神山直彦 (参加者8人)

(オ)「穴窯講座(初級向け)ー干支をつくる」

2kgの粘土を使用し平成26年の干支である午の置物を制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

<開催日>11月24日(日) 講師:八幡 満 (参加者14人)

ウ. 穴窯焼成クラス

穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象に、30kgの粘土を使い、自由に制作し自ら穴窯で焼成した。

・前期 <開催日>説明会:6月15日(土) (参加者10人)

焼成日:9月12日(木)~16日(月・祝)

窯出し:9月21日(土)

・後期 <開催日>焼成日:3月19日(水)~23日(日) (参加者8人)

窯だし:3月29日(土)

エ. 登り窯講座

信楽焼の伝統に基づき表現の幅を広げるため、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、登り窯(火袋、一の間)で焼成する体験を通じて登り窯の知識と技術の普及および公開を図った。

(ア)「登り窯講座(初級向け)ー自由制作」

食器、茶碗など自由に作陶し、登り窯で焼成した。

<開催日>8月18日(日) 講師:大西左朗 (参加者9人)

(イ)「登り窯講座(上級向け)ー大壺をつくる」

大壺を2日間にわたって制作し、登り窯の火袋で焼成した。

<開催日>8月24日(土)・25日(日) 講師:篠原 希 (参加者17人)

(ウ)「登り窯講座(中級向け)ー花入をつくる」

花入を作陶し、登り窯で焼成した。

<開催日>9月15日(日) 講師:小牧鉄平 (参加者10人)

(2) イベントの開催・誘致

陶芸の森を舞台に軽スポーツ、芸能、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等の誘致に努めた。

ア. 第7回 信楽作家市 in 陶芸の森の開催

5月の連休に実行委員会形式で開催した。陶芸関係者には来園者の多いゴールデンウィーク中の陶器販売の機会を、また、来園者には「市」のにぎわいと雰囲気を提供することができ、好評を得た。また、各駐車場を中心に、展覧会や講座などのチラシの配布を職員(観光魅力アップ)が行ったほか、信楽町観光協会のゆるキャラである「ぼんぼこちゃん」を使つてのPRを5月4日、5日に行った。

<開催日>5月2日(木)~5日(日・祝) (4日間)

ブース 96件 (昨年度: 134件)
テント 74張 (昨年度: 67張)
出展者 約140人 (昨年度: 約100人)
来園者 22,951人 (昨年度: 17,156人/対前年度34%増)

イ. 第18回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内の陶芸家を中心とする工芸家が、自らつくった質の高い作品を販売する「作り手と使い手の出会いの場」として「第2回信楽まちなか芸術祭」に併せて開催した。

<開催日>10月12日(土)～14日(月・祝) (3日間)

ブース 148件 (昨年度: 141件)
テント 74張 (昨年度: 72張)
出展者 約150人 (昨年度: 約160人)
来園者 24,108人 (昨年度: 22,036人/対前年度比110%)

ウ. わくわくウォーキング in 陶芸の森 の開催

園内および周辺散策路を観光ミニ冊子「陶芸の森うお～か～」を活用してウォーキングを行った。園内に設置された数々の陶芸作品を鑑賞したり、グラウンドゴルフを体験してもらった後には参加者にたぬき汁を提供し、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただいた。

<開催日>12月8日(日) (参加者33人)

<協力>ぼぼんた倶楽部(総合型地域スポーツクラブ)

エ. 平成25年度陶芸の森フォトコンテスト応募と表彰

豊かな自然に恵まれた園内を素材としてフォトコンテストを行い、その受賞作品をHP等で利用し、陶芸の森の魅力発信と公園機能の活用に努めた。

<募集期間>5月1日(水)～10月31日(木)

<応募者数>22人(県外7人、県内15人(うち甲賀市内8人))

<応募点数>64点

<審査員>今井一郎(全日本写真連盟会員)、黄瀬三朗(日本石仏協会理事)、川口館長

<結果>特選-『遠吠え』柴田聖也

入選-『陶芸の門番』藤川 茂、『秋日和』伴 光藏、『二家族』石田祐子
佳作-5人

<表彰式>11月17日(日)

特選 - 賞状、賞金2万円 入選 - 賞状、賞金1万円

(3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストやゲスト・アーティストの作品を県内のホテルや公共施設に貸し出しを行っている。平成25年度は新たに滋賀医科大学附属病院や、また、湖南市で開催されたイベント「東海道ウォーク みちくさコンパス」への一時的な作品貸し出しも行い、9カ所に計39点を貸し出した。

(4) ホームページ・バナー広告

陶芸の森ホームページにWeb広告の募集をし、テキスト広告の掲載を行った。

(5) 観光および集客促進のための広報活動

- ・近代美術館、陶芸の森、MIHO、佐川美術館4館によるスタンプラリー
- ・ミュージアムぐるっとパス関西2013への参加
- ・雑誌・フリーペーパーへの取材協力・読者プレゼントの提供
- ・Facebook・Twitterでの情報発信
- ・園内観光冊子「陶芸の森うお～か～」の改訂・増刷

- ・「第2回信楽まちなか芸術祭」関係のTV取材など
- ・毎日文化センターでのやきもの講座の開講 5月16日(木)、5月30日(木)
- ・節電クールライフキャンペーンへの参加 7月22日(月)～8月30日(金)
節電広報チラシ持参で、無料で入館
- ・信楽産業展示館 入館者200万人達成 10月15日(日)
- ・陶芸館 入館者100万人達成 11月18日(金)
- ・瀬戸市観光協会来園見学 11月12日(火)
- ・「関西文化の日」(11月16日～17日)へ参加
- ・滋賀県広報誌「滋賀プラスワン」11月・12月号 「うおーたんのわくわく探検隊」掲載
- ・びわ湖放送「Inter Shiga」にて特集 12月5日(木)放映
- ・びわこビジターズビューローとの連携
上海旅行エージェント視察受入 10月29日(火) 4人
在日ランドオペレーター視察受入 1月25日(土) 5人
- ・県内7館広報等会議 3月19日(水)

(6) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図った。

3. 施設の管理

陶芸の森が、地域の産業振興や文化の創造および観光の拠点施設として機能し、来園者にやすらぎ感のある施設となるよう良好な状態を維持するよう努めた。

さらに、園内の見所などをおさめた観光ミニ冊子「陶芸の森うお〜か〜」等を活用し、親切で丁寧な園内の案内と誘導を心がけた。

(1) 陶芸館および信楽産業展示館内の大型冷暖房機器の更新

陶芸館(県執行)

<工事期間> 1月15日(火)～2月14日(金)

信楽産業展示館(甲賀市執行)

平成26年度へ繰越。(秋頃施工予定)

(2) 公益財団法人滋賀県緑化推進会よりウツクシマツ2本の寄贈を受けた。

4. 陶芸の森やきもの振興基金の創設

平成24年4月に公益財団法人に移行したことにより寄付金に対する税制優遇を受けられることとなり、陶芸の森での様々な事業活動にご支援をいただくための寄付金制度「陶芸の森やきもの振興基金」を創設し、運営を行った。

第2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

これまでも時代の動きをいち早くとらえながら、産地への刺激を意識し、地域産業の振興にリンクするテーマによる展覧会や、滋賀の魅力である近江のやきもの文化や歴史、滋賀県在住の作家たちなど地域に根ざした展覧会を展開してきた。陶芸館では、幅広く国内外の多彩なやきもの文化の魅力を新しい視点を交えながら、分かりやすく紹介する展覧会を企画発信に努めた。

(1) 特別展「フランス印象派の陶磁器 1866～1886 ジャポニスムの成熟」

1870年代までは豪華な磁器製のテーブルウェアメーカーとして名を馳せていたアビランド社が、それまでの上質な透明感のある生地とは異なる、テラコッタを生地とした当時はまだ正統と認められていなかった印象派スタイルの絵付けや、当時一世を風靡していたジャポニスムの絵柄をモチーフとした。本展では、主にアビランド社の作品を通して、ジャポニスムの成熟と印象派の画家たちの新しい芸術への挑戦に刺激を受けた陶芸への取り組みなど、ヨーロッパにはなかった新しい陶芸の探求に果敢に取り組んだ作品の数々を紹介した。

<開催期間> 4月2日(火)～6月9日(日) (平成24年度からの継続事業)

<入館者数> 6,955人(4月2日～6月9日)(1日平均114人)

<関連事業> ギャラリートーク 5月6日(月・祝)(参加者約18人)

6月2日(日)(参加者約25人)

ロラン・ダルビス講演会 4月14日(日)(参加者約35人)

滋賀県知事へのロラン・ダルビス氏の表敬訪問 4月12日(水)

ギャラリー企画「アビランド社の洋食器と信楽料理人との出会い」展

<開催期間> 4月2日(火)～6月9日(日)

(2) 特別企画展「あれもやきものこれもやきものー陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス20年のあゆみ」

〔芸術文化振興基金助成事業〕

滋賀県立陶芸の森は美術館と滞在型スタジオを備えた、全国でも数少ないやきものを専門とする県立文化施設である。平成4年以来、アーティスト・イン・レジデンス事業を通して国内外から数多くのアーティストが信楽の地を訪れ、滞在しながら制作活動を展開してきた。これまで陶芸の森が受け入れてきたアーティストは、これまでに49カ国約1,000人。その取り組みは国内だけに留まらず、広く海外でも認知されている。また、地域文化の活性化への貢献も大きく、新たな滋賀(信楽)の伝統も芽吹きつつある。本展では、近年注目されている中堅・若手アーティストを中心に、彼らの作品とその取り組みを紹介した。創作研修活動の成果から最新の陶芸事情を探ることを試みた。

<開催期間> 6月18日(火)～9月23日(月・祝)

<入館者数> 8,947人(1日平均105人)

<関連事業> ギャラリートーク 7月14日(日)(参加者約20人)

8月11日(日)(参加者約15人)

9月15日(日)(参加者約10人)

出品作家の集い 9月5日(水)(出席者 27人)

<体験講座> (一般) 上絵付けに挑戦しよう! 6月30日(日)(参加者19人)

練り込み技法でうつわをつくろう! 7月14日(日)(参加者31人)

(子ども) 音の出る土の打楽器をつくろう! 7月21日(土)(参加者28人)

物語をたくさんせた土えほんづくり 7月27日(土)(参加者24人)

赤・白2色の土でうつわづくりだ! 7月28日(日)(参加者26人)

ティータイムの器づくり 8月3日(日)(参加者18人)

・ボランティアによる展示解説 延べ約125人の入館者を案内

*解説研修会 7月14日(日)(対象者2人)

(3) 特別展「酒器の玉手箱」

日本の豊かな器文化を紹介し、やきものファンの裾野を広げるための<人生を楽しむ・やきものシリーズ>の第1弾として、日本人の精神文化とも深く結びついてきた酒器にスポットをあてた。生活の節々にどのように酒器が取り入れられて来たのかを探りながら、徳利や盃、銚子など江戸時代後期から昭和前期に日本各地でつくられた多彩な酒器の数々を紹介した。本特別展については、第2回信楽まちなか芸術祭関連事業と位置づけて開催した。

<開催期間>10月2日(水)～12月15日(日)
 <入館者数>8,179人(1日平均120人)
 <関連事業>ギャラリートーク 10月13日(日) (参加者約35人)
 11月3日(日・祝) (参加者約20人)
 からくり酒器実演会 10月20日(日) (参加者約20人)
 11月10日(日) (参加者約20人)
 (追加開催) 12月1日(日) (参加者約25人)
 体験講座(穴窯講座)「信楽焼で酒と肴を楽しむ器をつくる」
 10月19日(土) (参加者8人)

・ボランティアによる展示解説 延べ 約120人の入館者を案内

＊解説研修会 10月5日(土) (対象者2人)

(4) 特別企画展「信楽焼の美」／「現代イギリスの陶芸～バーナード・リーチから若手作家まで」

「信楽焼の美」展では、当館の収蔵品の中から古信楽の大壺や近年収蔵品に加わった信楽の代表的な薪窯作家の作品を紹介した。引き続き「現代イギリスの陶芸～バーナード・リーチから若手作家まで」と題して、イギリス陶芸の巨匠バーナード・リーチからルーシー・リー、アリソン・ブリソンといった代表的な作家の他、そして陶芸の森で滞在制作した若手作家までを展覧し、イギリス陶芸を紹介した。

<開催期間>3月8日(土)～3月31日(月) (平成26年度への継続事業)

<入館者数>1,385人(1日平均69人)

(5) 当館企画展の他館への巡回

ア. 「THE YUNOMI 湯呑茶碗—ちょっと昔のやきもの日本縦断旅」

・<会場>福井県陶芸館 (福井県丹生郡越前町)

<開催期間>7月13日(土)～8月25日(日) (入館者3,674人)

・<会場>姫路市書写の里・美術工芸館 (兵庫県姫路市書写)

<開催期間>10月19日(土)～12月1日(日) (入館者4,372人)

イ. 「陶芸の魅力×アートのドキドキ」

・<会場>岐阜県現代陶芸美術館 (岐阜県多治見市東町)

<開催期間>5月25日(土)～8月25日(日) (入館者4,998人)

・<会場>兵庫県陶芸美術館 (兵庫県篠山市上立杭4)

<開催期間>9月7日(土)～11月24日(日) (入館者10,874人)

(6) 陶磁ネットワーク会議への参加

<会場>佐賀県立九州陶磁文化館

<開催日>11月21日(木)～22日(金)

(7) 収蔵品収集(管理)事業(陶芸の森陶芸作品等収集審査会の開催)

陶芸館では、収蔵品収集に際して、国内外の陶芸に造詣が深い学識経験者や美術館館長等の審査員により、2年に1回の陶芸作品等収集審査会を開催し、収蔵候補作品について審査いただいている。また審査会后、外部の有識者で構成される収蔵品価格評価委員により価格評価について審議を行った。

・陶芸作品等収集審査会

<開催日>2月12日(水)

平成25年度収蔵品収集実績

海外の現代陶芸	3点	
日本の現代陶芸	17点	
滋賀ゆかりの陶芸	92点	
クラフトと陶磁器デザイン	11点	合計 123点

・価格評価委員会

<開催日> 2月13日(木)～21日(金)

(8) 陶芸館ギャラリー企画展

陶芸館ギャラリーは、気軽に利用できる館内唯一の無料展示スペースである。これまで陶芸の森の役割や事業を、入館者に理解していただく情報発信の場として活用してきた。平成25年度も県内若手中堅アーティストの展覧会、アーティスト・イン・レジデンスや普及啓発事業の成果展を開催し、陶芸の森の独自性をより内外に示した。

ア. シリーズ湖国の陶芸家 谷穹 - LAND e SCAP E 現代のシヅラエ

<開催期間> 10月5日(土)～11月4日(月・祝) 10月2日(水)～12月15日(日)

<関連事業> オープニング&アーティスト・トーク 10月5日(土) (参加者約20人)

シリーズ湖国の陶芸家 宮本ルリ子 不変・流転-陶と水が紡ぎ出す情景

<開催期間> 11月9日(土)～12月15日(日)

<関連事業> オープニング&アーティスト・トーク 11月9日(土) (参加者約30人)

イ. 子どもたちの土の造形

夏休み企画として展示した。展示作品54点(安土小学校など計6校)

<開催期間> 7月20日(土)～8月25日(日)

ウ. アーティスト・イン・レジデンス企画展 桑田卓郎 - 芬芬(ふんぷん)

<開催期間> 6月18日(火)～7月15日(月・祝)

・関連事業: クロージング&アーティスト・トーク 7月15日(月) (参加者約25人)

アーティスト・イン・レジデンス企画展 黒川徹 - 覚醒する形象・パラレル ニューロン

<開催期間> 8月29日(木)～9月23日(月・祝)

・関連事業: セレモニー&アーティスト・トーク 9月8日(日) (参加者約25人)

(9) 特別鑑賞塾

第13回特別鑑賞塾

<開催日> 7月5日(金) (参加者10人)

7月7日(日) (参加者3人)

第14回特別鑑賞塾

<開催日> 11月15日(金) (参加者9人)

11月17日(日) (参加者10人)

(10) 博物館実習

<実施期間> 8月20日(火)～8月23日(金) (実習生5人)

(11) 信楽焼の魅力紹介ビデオの制作〔芸術文化振興基金助成事業〕

信楽焼の伝統技術(重ね掛け・松皮・細工物)をビデオ(2本)に記録保存した。成果物は一般向けの上映や産地業界向けの研修会などの事業で活用し、信楽焼の普及啓発と後継者の育成を図った。

2. 創作事業

(1) アーティスト・イン・レジデンス事業

ア. スタジオ・アーティストの参加 計46人(延べ)

鈴木麻起子(4/1～11/30)、植葉香澄(4/1～4/27)、デレック・ラーセン(日本在住)(4/1～4/27)、アン・マリーション(フランス)(4/1～4/8)、李岱容(台湾)(4/1～6/30)、鈴木由衣(4/1～6/18)、サヤ・マクネルン・ヤナギ(イギリス)(4/1～7/2)、桑田朋以(4/16～29・6/10～10/16)、村山まりあ(4/18～3/30)、肖麗(日本在住)(4/19～6/19)、杉浦康益(4/23～5/23)、谷本貴(5/2～6/15)、宮岡貴泉(5/9～7/13)、永井文子(5/30～6/27・9/20～10/20)、谷本真理(6/6～8/24)、ドーン・デルカド

(アメリカ) (6/7～6/11)、大谷 滋(6/11～8/18)、蔡 宗隆(台湾) (6/19～9/1)、小野真由(6/20～7/31)、伊藤 彩(7/3～1/15)、許 芝瑜(台湾) (7/17～10/13)、ドリス・ハペル(ドイツ) (7/17～8/16)、呉 昊(中華人民共和国) (7/17～9/3)、桑名紗衣子(7/17～9/8)、古谷浩一(8/1～9/29)、阪井 七(8/1～9/29)、都築伸行(8/1～9/29)、杉本 祐(8/1～9/29)、松本伴宏(8/1～9/29)、鈴木大弓(8/1～9/29)、澤 克典(8/1～9/29)、村田 彩(8/18～3/5)、藤井 龍(8/29～9/30)、桐月沙樹(9/13～10/20)、ジェーン・ノーブリー(イギリス) (9/24～10/29)、章 印(中華人民共和国) (10/16～12/3)、川邊ありさ(10/23～3/31)、カリマ・デュシャン(フランス) (11/1～12/1)、東島孝子(11/2～12/15)、西井久芳(1/4～3/4)、上田勇児(1/28～3/19)、リサ・セシル(アメリカ) (2/15～3/31)、エレナ・ジルヴァ(ロシア) (2/27～3/31)、アン・バニック(デンマーク) (2/28～3/31)

日本在住－32人、フランス－2人、台湾－3人、イギリス－2人、アメリカ－2人、ドイツ－1人、中華人民共和国－2人、ロシア－1人、デンマーク－1人

イ. ゲスト・アーティストの招聘 計 11人

- ・イケムラレイコ (ドイツ在住・平成24年度より継続) (5月16日～21日、10月30日～11月5日、1月14日～16日)

「うさぎ観音」と題した大型作品2点の仕上げを中心に、6点あまりの作品を制作した2年間にわたる陶芸の森での制作を終了した。

- ・ギャレット・マスターソン (アメリカ・平成24年度より継続) (5月22日～6月27日)

前年度に制作したオブジェ数点の焼成と仕上げを行った。

- ・桑田卓郎 (平成24年度より継続) (4月1日～5月2日)

前年度に引き続いて大型作品の制作を継続した。

- ・キャサリン・サンドナス (アメリカ) と宮本ルリ子 (7月2日～9月3日)

信楽透土を使い、本をイメージした作品をコラボレーションで制作した。

- ・野口悦士 (9月17日～10月10日)

スイッチバックキルンの築窯と焼成の指導を行った。

- ・ファウスト・サルヴィ (イタリア) (10月2日～12月2日)

ジグソーパズルのような壁面作品を中心に人物像など計10点あまりを制作した。レクチャーを11月30日におこなったほか、『L I F E I S A P U Z Z L E』と題した個展を京都のギャラリー艸居で開催した。

- ・キム・シモンソン (フィンランド) (11月4日～12月2日)

「鷹を見上げる少女」と題して140cmあまりの少女像2体を組み合わせた作品を制作した。

1月30日にレクチャーを開催、マンガや村上隆のフィギュアなどの日本の現代美術からの影響について、近作をスライドで紹介しながら語った。

- ・エリック・カオ (中華人民共和国) (1月4日～3月5日)

フィギュア数点と器を制作。器とフィギュアを組み合わせ、「慶-伝統を背負って」と題した、作品を制作した。レクチャーについては3月2日に行った。また、創作研修館ギャラリーで個展を開催した。

- ・長澤和仁 (滋賀県) (1月10日～3月31日・平成26年度～継続定)

焼成終了後にバーナーで作品を局所的に焼きなおし、風化したような雰囲気をかもし出す独特の手法を駆使し大型の核型あるいは円筒形の作品を数点制作している。

- ・ジェニファー・リー (イギリス) (3月13日～31日・平成26年度～継続)

異なる色土を押し型に貼り付けて、うつわを制作する。色土の境界が山の稜線のようにみえる独特のうつわ数点を制作した。

ウ. アーティストによる展覧会活動等

まちなか芸術祭開催期間中は、散策路を含め信楽町内で展示を行った。また、このほかに5名のス

タジオ・アーティストがメインイベントである「THE TANUKIーたぬき・狸・タヌキ」に参加した。

「名前のない記憶たち展」甲賀市立信楽図書館（10月1日～20日） 村山まりあ

「菓子吉チキチキ展覧会！☆ ～たぬきもなかに誘われて～」信楽町長野地区商店街内菓子吉
（10月1日～20日） 谷本真理 伊藤 彩

「わからないこと/Violence」信楽町長野地区窯元散策路内 丸由
（10月1日～20日） 藤井 龍

「移植パーティ」信楽町長野地区窯元散策路内 丸由（10月1日～20日）許 芝瑜（台湾）

「Shigaraki mix」創作研修館ギャラリー
（10月27日～29日） ジェーン・ノーブリー（イギリス）

「The existing way of memory」創作研修館ギャラリー
（11月19日～29日） 章 印（中華人民共和国）

「The vanishing of black」創作研修館ギャラリー
（11月29日～12月28日） カリマ・デュシャン（フランス）

「慶-Carrying Tradition Series ー伝統を背負ってー」創作研修館ギャラリー
（3月2日～3月16日） エリック・カオ（中華人民共和国）

・その他過去に滞在したスタジオ・アーティスト等の活躍について

日本伝統工芸会近畿支部展への入選入賞及び、滋賀県文化奨励賞のを受賞。

・インターンシップの受け入れについて

やきもの制作における技術や知識、および創作に打ち込む姿勢などを学ぶ場としての機能を持つ創作研修館にインターンを1人、文星大学(栃木県)から受け入れた。

エ. 地域での情報発信拠点として

(ア) 創作研修館オープン・スタジオの開催

・第1回オープン・スタジオ

10月に信楽町内で開催された「第2回信楽まちなか芸術祭」のメインイベントである「THE TANUKIーたぬき・狸・タヌキ」のワークショップとして、信楽陶芸作家協会会員の陶芸家による「TANUKI」タヌキの置物の制作の実演をおこなった。

<開催日> 5月19日（日） （参加者35人）

・第2回オープン・スタジオ

陶芸館で開催中の特別企画展「あれもやきものこれもやきものーアーティスト・イン・レジデンス20年のあゆみー」に出品しているレジデンスOB、OGである高間智子によるワークショップ「積層彩磁の美」と小島修によるワークショップ「土と格闘する」を中心に行った。また、併せて滞在中のアーティストが制作しているスタジオを公開した。

<開催日> 7月7日（日） （参加者35人）

・第3回オープン・スタジオ

第2回に引き続いて、陶芸館で開催中の特別企画展「あれもやきものこれもやきものーアーティスト・イン・レジデンス20年のあゆみー」に出品しているレジデンスOB、OGである青木拳によるワークショップ「流転 無常なる陶」と清水真由美によるワークショップ「練り込みの美」を中心に行った。また、併せて現在滞在中のアーティストが制作しているスタジオを公開した。

<開催日> 9月8日（日） （参加者30人）

・第4回オープン・スタジオ

滞在中の二人の作家、ファウスト・サルヴィ氏（イタリア）とキム・シモンソン氏（フィンランド）によるレクチャーを中心に構成した。また、午前中に、京都市立芸術大学陶芸科の学生の

見学も受けていたため多くの来館者を迎えることができた。学生には、スタジオと新設した窯の広場の見学を主に行った。

<開催日>11月30日(日) (参加者70人(うちレクチャー15人))

ファウスト・サルヴィ(イタリア)レクチャー「LIFE IS A PUZZLE」

キム・シモンソン(フィンランド)レクチャー「キム・シモンソンの仕事」

・第5回オープン・スタジオ

滞在中のゲスト・アーティストのエリック・カオ氏のレクチャーと個展「慶—Carrying Tradition Series—伝統を背負って—」の開催を併せて行った。

<開催日>3月2日(日) (参加者35人)

・第6回オープン・スタジオ

<開催日>3月23日(日) (参加者10人)

・レクチャー「ギャレット・マスターソンの仕事」の開催

昨年度来館作品を制作したゲスト・アーティスト、ギャレット・マスターソン(アメリカ)が作品の制作の仕上げに来館した際にレクチャーを行った。

<開催日>6月23日(日) (参加者19人)

講師:ギャレット・マスターソン

・レクチャー「キャサリン・サンドナスの仕事」、「宮本ルリ子の仕事」の開催

今年度ゲスト・アーティストとして招聘した、キャサリン・サンドナスと宮本ルリ子によるレクチャーを開催した。

<開催日>8月31日(土) (参加者20人)

講師:キャサリン・サンドナス、宮本ルリ子

・信楽高等学校セラミック科ワークショップ

信楽高等学校セラミック科2年生を対象とし、10月に金山窯、登り窯で焼成する作品を制作した。講師には信楽陶器工業協同組合青年部員と信楽陶芸作家協会会員があたり伝統的な壺づくりと茶碗の制作指導を行った。また、例年受けている高校教諭の新任研修を兼ねた。

<開催日>7月17日(水)、18日(木) (参加者47人)

・リレートーク「薪窯の歴史とその可能性」

金山窯、登り窯焼成事業の関連で、これら信楽にゆかりのある窯や新たに築窯したスイッチバックキルンなども含めて「薪窯についての歴史と可能性」を様々な立場の講師からリレー形式でレクチャーをいただき、理解を深めるきっかけとした。

内容:「中世の信楽焼—金山窯をめぐる」 畑中英二(滋賀県文化財保護課)

「文献資料にみる信楽、登り窯の問題」 河原正彦(滋賀県立陶芸の森芸術顧問)

「スイッチバックキルンについて」 野口悦士(陶芸家)

「循環型もの作りのモデル形成とその価値環流について」

松井利夫(陶芸家、京都造形芸術大学教授)

<開催日>9月22日(日) (参加者50人)

・中里隆氏によるロクロ成型のワークショップの開催

中里氏は過去に3回陶芸の森で、信楽在住の若手陶芸家を対象に、唐津独特の牛べらによる袋もののロクロびきから始まり、更に技術を磨く短期講座を開催し好評を博した。今回の中里氏の見学に際し、牛べらでの更なる技術の向上の指導と、そのロクロの技を広く一般に公開した。

<開催日>9月27日(金)~29日(日) (参加者48人)

講師:中里 隆

(イ)情報閲覧室とやきもの相談員の活用

情報閲覧室の資料については、観光魅力アップ職員による整理を継続しておこない、充実させた。これらの資料を使い来館する作家の新たな制作の際の打ち合わせ、指導などに活用した。また、スイッチバックキルンを築窯した際に築窯方法や継続して窯の焼成や釉薬について信楽に根付く技術のアドバイスやきもの相談員から得、技術力の向上に努めた。

(ウ) 信楽焼の担い手たちとの交流

- ・登り窯・金山窯焼成事業での交流については、陶芸産業振興事業の項に記載した。
- ・「第2回信楽まちなか芸術祭」の開催に併せて、信楽在住の陶芸家数人をスタジオ・アーティストとして受け入れ、他のスタジオ・アーティスト等も参画し大型の壺を共同制作し交流を深めた。また、芸術祭のメイン企画である、「THE TANUKIーたぬき・狸・タヌキ」についても、その試作段階でスタジオ・アーティストによる制作を積極的にすすめ作家協会会員との交流を進めた。

3. 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行った。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や、陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につながるよう努めた。

また、アール・ブリュットとして評価をされている障がいをもつ人々の芸術の素晴らしさは、滋賀では陶芸作品から最初に見出されてきたことから、当館ではさらにその魅力を広く展示などで発信する機会を設けるとともに、その土の造形を造り出すきっかけを増やすという観点から、「世界にひとつの宝物づくり事業」とともに、子どもたちや障がいを持つ人の造形活動を支援していきたいと考える。

(1) 「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」

年々、当プログラムへの参加校が増えてきている。陶芸の素晴らしさや、陶芸の森を広めるために学校への出張授業、学校が来園して行う来園プログラムを継続し、さらに美術館の事業として内容を吟味しながら進めてきた。「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携をとりつつ、本事業では、新規のプログラムの開拓などを中心に担当した。これにより、信楽へ来て来館するきっかけづくりにつながる来園プログラムについても、同様に継続していく。

また陶芸館ギャラリーを活用した、連携授業の成果展を開催し、学校だけでなく親とともに子どもたちが陶芸の森に来館することを目指し、来園者の新規開拓、展覧会への動員に努めた。

出張授業Ⅰ (80回 参加者 5,283人)

来園プログラム (11回 参加者 915人)

ねんどと遊ぶ (5回 参加者 282人)

世界にひとつの宝物づくり事業「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」

来園制作 (37回 参加者 1,683人)

出張授業Ⅱ (32回 参加者 846人)

特別講座 (4回 参加者 96人)

協力：滋賀次世代文化芸術センター 合計 「本物と出会う」160人

(2) 夏季研修会「美術館からの発信 “信楽のうずくまるー種壺を掘り下げる”

学校教育や社会教育、美術館・博物館に携わる関係者を対象に、参加者が実際に本物に触れるなど、実践をとおして陶芸や美術が子どもの健全な成長に果たすための美術館の役割を考えた。この研修会は、MIHO・MUSEUMと連携し、陶芸の森では展覧会見学とワークショップで構成した。事業の運営は、世界にひとつの宝物づくり事業と連携をし、両方で広報活動を行った。

また、この研修会に併せて連携授業等で制作した子どもの作品を夏休み企画としてギャラリーで展示発表を行った。

第1日目 8月5日(金) MIHO・MUSEUM (参加者22人)

第3 産業の振興に関する事業

信楽焼の伝統技術を将来に継承し、人材育成を図ること、いわば将来の発展への足場強化を目的に、信楽高等学校デザイン科の外部研修の受け入れを行った。また平成25年度は「第2回信楽まちなか芸術祭」の関連として信楽陶器工業協同組合青年部、信楽陶芸作家協会を中心に登り窯・金山窯等焼成事業を実施した。

(1) 信楽高等学校デザイン科外部研修の受け入れ

「つくられるものの公共性に対する認識」と「個人の自由な表現」の両立という、デザインにおけるバランス感覚を養うため2年生を対象に、陶芸の森にて実習をおこない、大原薫氏の指導のもとに信楽の産業製品である陶製のガーデンセットに加飾をした。

その後乾燥、施釉、焼成を経て窯出しを行った。窯出し後、創作研修課職員による講評を行い生徒自らの手で完成した絵付けの椅子を太陽の広場に設置をした。

・窯出し、講評、設置及び陶芸館見学 4月26日(金) (参加者 窯出し(3年生)17人)

(2) 登り窯・金山窯焼成事業

「第2回信楽まちなか芸術祭」の開催に併せて、従来、信楽陶器工業協同組合青年部と共同で実施していた登り窯焼成事業を拡大し、信楽陶芸作家協会の協力も仰ぎ、登り窯と併せて金山窯等も協同で焼成し、各窯の特徴、歴史を学んだ。また信楽陶器工業協同組合関係者、信楽陶芸作家協会会員、信楽高等学校セラミック科2年生、陶芸の森スタジオ・アーティスト等陶芸を志す者相互の交流を促進させる一助とした。

<主催等>主催 陶芸の森、信楽まちなか芸術祭実行委員会
協力 信楽陶器工業協同組合、信楽陶芸作家協会
協賛 公益財団法人秀明文化財団

<日程>窯詰め 9月27日(金)～9月29日(日)
焼成 10月1日(火)～10月5日(土)
窯だし 10月20日(日)

<参加者>信楽陶器工業協同組合青年部を中心とした工業組合員	15人
信楽陶芸作家協会会員を中心とした信楽で活動する作家	28人
陶芸の森スタジオ・アーティスト等	5人
信楽高等学校セラミック科生徒	30人
信楽窯業技術試験場研修生	10人
その他	10人
合計	98人

(3) デザイン活性化事業

ア. デザイン面からの支援による新商品の開発促進

「既存製品への加飾によるデザイン」として、今回は洗面鉢を取り上げ、デザインを信楽町内在住の陶芸家である高間智子に依頼した。今までにない、斬新な洗面鉢が完成し、業界へのデザイン提案の一環とした。

また、「第2回信楽まちなか芸術祭」の関連で開催した「信楽エクステリア商品の今昔」に協力したほか、過去にこの事業で制作したガーデンファーニチャーなどを展示した。

イ. デザインコンペ「アニマル・フィギュア 馬の造形・馬の美」

平成26年の干支である「馬」をテーマにノーザンファームしがらきの協賛を得て、現代の生活にマッチしたモダンな「馬の置物」のデザインのコンペを行った。優れたモデルには、賞を授与し、入

賞入選作品については、「第2回信楽まちなか芸術祭」の企画として信楽産業展示館にて展示、入賞作品については引き続き、年度末まで開催されていた信楽陶器総合展に展示した。

＜主催等＞主催 陶芸の森

後援 信楽まちなか芸術祭実行委員会

協力 信楽陶器工業協同組合、信楽陶器卸商業協同組合、信楽陶芸作家協会

協賛 ノーザンファームしがらき

＜日程＞作品募集期間 4月10日（水）～6月30日（日）

＜応募点数＞43点

＜審査＞9月5日（木）

＜審査結果＞金賞 チェ スジョン（大韓民国）「無題」

銀賞 廣田忠美（滋賀県）「陶筐」

銅賞 加藤佳世子（滋賀県）「flower base」

＜審査員＞手代木貴志（ノーザンファームしがらき）、奥田立博（信楽陶器卸商業協同組合）

宮本ルリ子（陶芸家 ゲスト・アーティスト）、

川口館長、杉山創作研修課長、鈎主任学芸員

（4）信楽産業展示館の活用

ア. 「信楽から吹いてくる風～日台交流展」の開催

信楽青年寮で生活する知的障害を持つ人たちによる作品は、ヨーロッパや日本で開催されたアール・ブリュットで紹介され高い評価を得た。今回、台湾で展示された青年寮の作品の凱旋記念展を信楽産業展示館で開催するにあたり、展示作業等に協力した。

＜会期＞5月12日（日）～6月9日（日）

＜主催＞信楽青年寮（社会福祉法人しがらき会）

＜後援＞陶芸の森、信楽陶器工業協同組合、信楽陶器卸商業協同組合

イ. 「信楽焼産業総合展」（主催：信楽陶器卸商業協同組合）での展示について

デザイン活性化事業関係の試作品を展示紹介することで商品化の可能性を追求した。

＜展示期間＞4月2日（火）～9月23日（月・祝）

＜展示品＞PATAシリーズの鍋とボール、PATAシリーズのボール（角鉢）・土鍋・耐熱食器の試作品、エジプシャンペーストによるアクセサリー

ウ. 信楽産業展示館屋外展示（「第2回まちなか芸術祭2013」関連）

過去に信楽のメーカーでつくられたガーデンエクステリア、プランター等の大物商品の中でアートの要素の強いものを芸術祭に併せて信楽産業展示館周辺に野外展示することで商品の販売につなげるよう努めた。デザイン活性化事業で試作した加飾を施したガーデンファニチャーなどを展示したほか、信楽陶器卸商業協同組合と協力して展示作業をおこなった。

＜展示期間＞10月1日（火）～10月20日（日）

＜出展数＞60点

エ. デザインコンペ「動物の置物ーアニマル・フィギュア」の展示

デザイン活性化事業関係の試作品を展示紹介することで商品化の可能性を追求した。

＜展示期間＞10月26日（土）～3月30日（日）

＜展示品＞デザインコンペ「アニマル・フィギュア 馬の造形・馬の美」の入賞、入選作品について引き続き展示紹介しデザインの啓発に努めた。

（5）流通関係者によるレクチャーの開催

ライフスタイルコーディネーターである山田節子さんを講師に迎え「ものづくりについて考える」と題し、消費地の動向やライフスタイルの変化についての講演を、信楽焼関係者を対象におこなった。ま

た、講演会と併せて「第2回信楽まちなか芸術祭」の『信楽からつたえたいコト展』の事業説明会を兼ねることで『信楽からつたえたいコト展』出品製品の制作のきっかけとすることができた。

〈主 催〉陶芸の森、信楽陶器工業協同組合、信楽まちなか芸術祭実行委員会

〈開 催 日〉5月27日（月）

〈開催場所〉信楽開発センター

〈講 師〉山田節子（ライフスタイルコーディネーター）（参加者60人）

* 第2回信楽まちなか芸術祭への協力

10月1日から20日まで信楽町一帯で開催された「第2回信楽まちなか芸術祭」（信楽まちなか芸術祭実行委員主催）について陶芸の森として以下の事業を実施、協力した。

1. 実行委員会への職員の派遣

- ・実行委員 川口館長
- ・プロデュース部会副部長 杉山創作研修課長
- ・事務局 松波主査、佐々木主事

2. 開催期間：10月1日（火）～20日（日）（期間中、全日開園）

3. 事業内容

(1) まちなか芸術祭期間中のスタジオ・アーティストの町内での展示

陶芸の森スタジオ・アーティストとして陶芸の森に滞在した若手作家6名が展覧会を開催した。作家が、各々展示場所を探すところからかかわったうえで、滞在中に制作したものを展示した。

(2) 「第8回信楽陶器総合展—信楽から伝えたいコト展」

主催：信楽陶器工業協同組合、信楽陶器まつり実行委員会、信楽まちなか芸術祭実行委員会

概要：6月以降、主催者である信楽陶器工業組合の同展企画委員会の求めにより杉山課長を派遣し主に企画運営の進行管理と展示計画の立案にあたりました。信楽町内のメーカーを主体に陶芸家も含め52社（人）の製品約500点の展示をおこない、現在の信楽焼製品でつくり手が伝えたいことを提示した。

(3) 「信楽エクステリア商品の今昔」（陶芸の森事業「信楽産業展示館屋外展示」（再掲））

主催：（公財）滋賀県陶芸の森、信楽陶器工業協同組合、信楽陶器卸商業協同組合、信楽まちなか芸術祭実行委員会

概要：過去に信楽のメーカーでつくられたガーデンエクステリア、プランター等の大物商品の中でアートの要素の強いものを芸術祭に併せて信楽産業展示館周辺に野外展示することで商品の販売につなげるよう努めました。デザイン活性化事業で試作した加飾を施したガーデンファニチャーなどを展示したほか、信楽陶器卸商業協同組合と協力して展示作業をおこなった。

出展数：60点

展示品：五重塔、七福神などの細工物、大型プランター、庭園灯、ガーデンファニチャー、動物をモチーフにしたエクステリア、陶芸の森事業で制作した「加飾」の試作品等

(4) 「THE TANUKI—たぬき・狸・タヌキ」について

陶芸の森としては、3月、5月に創作研修館でのオープン・スタジオで2回、本企画を取り上げ、作家協会会員等のTANUKI制作に協力し事業の盛り上げに努めた。また、オープン・スタジオ開催後も、試作品の制作などについて創作研修館でおこなったほか、滞在中のスタジオ・アーティスト5名が本企画に参加しTANUKIの制作をおこなった。

主催：信楽陶芸作家協会、第2回信楽まちなか芸術祭実行委員会

後援：信楽陶器工業協同組合、信楽陶器卸商業協同組合、公益財団法人滋賀県陶芸の森

概要：信楽町内各所に160体の「THE TANUKI」の置物をつくり展示した。

(5) まち角から～それぞれの心、それぞれの形で

主催：信楽青年寮、滋賀県立陶芸の森、世界にひとつの宝物づくり実行委員会

概要：信楽青年寮の作家たちや視覚障がい者とのワークショップで生まれた作品にあわせて陶芸の森が所蔵する土器を貸し出し展示に協力した。

開催場所：長野地区商店街 藤喜陶苑

(6) 信楽Q&A

信楽高原鉄道及び信楽町観光協会と共同で「信楽Q&A」の問題の作成をおこなった。この「信楽Q&A」については、期間中高原鉄道が主に乗客を対象に配布し信楽のPRにつなげた。

(7) 関係団体への創作スペースの貸出

「2013信楽国際薪窯ワークショップ」（主催：陶匠会）および「信楽焼伝統工芸士によるワークショップ」（主催：信楽焼伝統工芸士会）のふたつのまちなか芸術祭関連事業について協力した。

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

来園者に、より一層陶芸を身近に感じていただけるようなサービスを展開するために、展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行った。また併せてインターネットを活用したオンラインショップでの商品の提供に努めた。

2. その他

(1) 自動販売機の設置

来園者が憩い、楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供した。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館での宿泊者に対し、寝具の提供をした。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料としての薪を提供した。